

ライトノベルの特徴に関する研究

—少年向け作品と少女向け作品における相違の分析—

細越 野乃花

本研究では、ライトノベル作品について、少年向け作品と少女向け作品のそれぞれに見られる異なった特徴を実証的に明らかにすることを目的とした。

ライトノベルは、1990年に大手商用パソコン通信サービスのニフティ・サーブ (Nifty-Serve) に設けられた「SFファンタジー・フォーラム」においてその言葉が誕生したが、ルーツはさらに遡り1960年代から1980年代のSF小説に始まるとさえされる。その後、『スレイヤーズ!』や『ブギーポップは笑わない』などの作品が創作され、読者層を拡大しつつ発展してきた。2000年以降には「ライトノベル・ブーム」として社会的にも注目されている。毎日新聞社が毎年実施する『学校読書調査』や朝の読書推進協議会が実施した『朝の読書』で読まれた本の調査では、ライトノベルが中学生や高校生に多く読まれていることが示されている。ライトノベルの推定販売金額は2012年には284億円となり、文庫本全体に占める推定販売金額のシェアは21.4%となり、その後、文庫本に占めるシェアや推定販売金額は僅かに減少を見せたものの、2018年におけるシェアは17.5%、文庫本と単行本を合わせたライトノベルの売り上げ実績は2019年に270億円となっている。ライトノベルの読者の平均年齢も27、28歳へと年々上昇を見せ、出版不況といわれる現在においてもライトノベル市場は比較的活況を呈しているように見える。2018年3月には東洋経済オンラインが「意外と知らない『ライトノベル』ブームの現在」という記事を掲載しており一種の社会現象ともいえるべき様相を呈している。

これまでに研究も蓄積され、ライトノベルの発展史を研究したものや、ライトノベルの作品を通して現代言語文化の特徴を明らかにすることを試みたもの、さらに、児童文学とライトノベルにおける「妖精」と「フェアリー」の描写に焦点を当ててジェンダーの視点からそれぞれの特徴を明らかにすることを試みたものなどもある。これまでのライトノベル研究を全体として見れば、少年向けと少女向けの作品の両方が研究対象とされているが、本研究では、それらの少年向け作品と少女向け作品の相違を分析することを試みた。

研究方法として、インターネットに投稿された読者レビュー(合計1,423件)の分析と作品自体における文章的特徴の分析という2つを実施した。いずれも統計フリーソフトR上で形態素解析エンジンMeCabを使用して言葉の特徴を引き出した上で、レビューや作品の文脈に照らして分析や考察を行った。その結果、レビューの分析からは、少年向け作品に比べて少女向け作品では登場キャラクターに感情移入されて読まれている傾向が指摘され、本研究では作品の文章的特徴(品詞の頻度の違い、心内文、心内会話、感情語の使用など)にその理由を求めた。

(指導教員 原 淳之)